

## GIC 第 11 回ガラス技術シンポジウム参加報告

(一社) ニューガラスフォーラム事務局

### Report on the 11<sup>th</sup> Glass Technology Symposium sponsored by GIC

New Glass Forum

#### 1. 経緯

ガラス産業連合会 (Glass Industry Conference) がガラス 6 団体で設立されて、15 年目となります。GIC の主な役割は構成するガラス関連 6 団体 (板硝子協会, 硝子繊維協会, 電気硝子工業会, (一社) 日本硝子製品工業会, 日本ガラスびん協会, (一社) ニューガラスフォーラム) の共通する技術課題のフォローや新年会など重複する行事を遂行することです。



ウィンクあいち外観



ガラス技術の交流が、特に学会と産業界の間で不足しているとの反省から、産学交流活性化の対策として11年前から、日本セラミックス協会ガラス部会主催の「ガラスおよびフォトンクス材料討論会」の初日の午後に共催プログラムとして「ガラス技術シンポジウム」を開催することになりました。また、ポスターセッションではガラ討と合同でポスターセッション、研究室紹介、その後の懇親会を行っています。

今回は、11月12日(木)に愛知県産業労働センター「ウィンクあいち」をメイン会場として催されました。懇親会も、同会場で行なわれ

ました。

当フォーラムでは、企画部長の丸山勉が事務局をして準備を進めてきました。当日の参加者は約 190 名でした。

今回はガラ討と今まで以上に連携して準備し、運営にも協力するというので、プログラム全般に渡って GIC 側の理解と協力を頂きました。

例えば、前年から始まった国際セッションにより多くの時間を割くために従来の初日午後の GIC の招待講演は 1 件に絞りましたが、2 日目のガラ討の 2 件の招待講演には GIC の希望を反映させて頂きました。また、ポスターセッションで発表する予定であった内容を国際セッションで発表して頂きました (3 件)。

更に国際セッションの評価委員やガラ討の発表の座長なども GIC 側委員にご協力いただきました。

## 2. 講演テーマと講演者

今回の講演は、産業技術総合研究所イノベーション推進本部地域推進部次長の池上敬一氏による「産総研のイノベーションハブとしての取り組み」講演が行われました。科学技術イノベーション総合戦略の概要と、そのポイントである「橋渡し研究」を推進するための取り組みを実例を交えて講演いただきました。

ポスターセッションでは、GIC テーマとして 17 件の発表がありました。参加機関は、旭硝子、五鈴精工硝子、産業技術総合研究所、東洋ガラス、東洋佐々木ガラス、日本板硝子、北海道立総合研究機構、マグ・イゾバル、三星ダイヤモンド工業、リードックス、ガラス産業連合会、日本ガラスびん協会、ニューグラスフォーラム (五十音順、日本電気硝子は講演に変更) でした。



例年のようにGICの活動紹介のポスターとニューガラスフォーラムからガラス種30万以上収録の「INTERGLAD Ver 7.3」と国家プロジェクトの成果のフォローアップ事業のポスターの展示をおこないました。



ポスターセッション

### 3. 余話

「ウインクあいち」は名古屋駅桜通口から徒歩5分と非常に便利でした。所在地の裏には、柳橋中央市場があり、ここでは昼食に、500円程度で生の大きな海老や数種の魚の入った海鮮

丼が食べられました。夜は昔の記憶で桜通りを渡った先の古くて安い飲み屋街を期待して行ったのですが、きれいでおしゃれな飲食店街に変貌していたのには隔世の感がありました。

そういえば40年程前の学生時代に列車の乗り換えの合い間に穿き古したGバンで大きな荷物を持ってきれいとはいえない駅構内をうろろうろしていたら、手配師のような恐そうなおじさんに「兄ちゃん仕事探してないか？」と声をかけられたのも懐かしい思い出でした。



ウインクあいちから柳橋中央市場を望む